

海を越え国際試合をした そして子どもたちは友情で結ばれた

スタッフ 団長 中野●司(鶴田町長) 監督 太田 明 柔道インストラクター 藤田一郎
選手団 6年生 齊藤恭叙・奈良秀太郎・太田道也・渋谷萌雅・高橋龍次・奥瀬可奈絵
5年生 相馬未優・芦田弥隼 4年生 渋谷恭英・奥瀬雄心



ロシア・ハバロフスク柔道交流記

…… 柔道を通して交流した4日間を太田監督が振り返る ……

▽不安の中、花束を持って温かく迎えてくれたハバロフスクの子どもたち



五月三十日(金)〜六月二日(月)まで、鶴田町柔道少年団(中野●司団長)十六人がロシア・ハバロフスク市に渡り、初めての国際試合に挑みました。

五月三十日(金)、弘前駅での結団式を終え一路新潟へ、そして新潟からは飛行機でハバロフスク空港へ。到着した空港は、軍人が多く異様な雰囲気でした。なぜか、私たち一行はなかなか入国することができず、通訳もいないまま三十分以上も待たされて入国しました。待合ロケットでは、ハバロフスク少年柔道チームが花束で出迎えてくれ、ようやく和やかな雰囲気になりました。

ホテルに着くと「治安上の理由で、必ず鍵をかけること・必ず団体行動をとること」と強く言われ、部屋もあまりよくないこともあり、主将の齊藤君から「来なければよかった」と弱気な発言が…先々がとても不安でした。

▽ホテルから見たハバロフスクの町並み、以前より治安かなり良くなった



翌日は大会日、みんなで朝食をとりましたがとてもおいしいと言えませんでした。食べられないと言った感じがしょうか。子どもたちは、パンを残しながらも足りないと言句を言っていました。日本の子どもたちは贅沢だと感じました。

大会は、ハバロフスク市誕生百五十周年を記念した「市長カップ」という大会です。市内はお祭りムード一色で、そんな中、試合会場に着いて、驚いたことに、野外ステージに黄色と青の畳が敷かれ日本とロシアの国旗がなびいているのです。こんな会場で試合ができる子どもたちをとっても羨ましく思いました。鶴田からはA・Bの二チームがエントリーし、結果は、準優勝と三位と、国際ルール(言い換えれば何でもありのルール)の柔道に対応できず



- ①柔道はハバロフスクの女の子にも人気のスポーツ。女の子同士すぐに仲良くなった。
- ②ハバロフスク少年柔道チームとの合同練習。気合いがみなぎっている。
- ③ハバロフスク市誕生150周年の会場で、太田監督がロシアの子どもたちに囲まれ記念撮影。ロシアでの柔道人気は高く、Tシャツ、キーホルダーなどあらゆる物に柔道のデザインがされている。
- 当然、子どもたちに太田監督はモテモテ。
- ④練習終了後、「何語？」で話をしたのだろうか、2人は意気投合。
- ⑤ロシアで一番長い川・アムール川での遊覧。通訳なしでも女の子同士はなぜか気持ちが通じ合う。
- ⑥さよならパーティーでロシアの子どもたちがコサックダンスを披露。調子に乗って鶴田の子どもたちもやってみるがロシアの子どもたちに笑われ盛り上がる。



鶴田町柔道少年団監督

太田 明さん

おおた・あきら 鶴田消防署勤務



鶴田町柔道少年団の監督になって、子どもたちを全国大会へ幾度となく導く。指導のモットーは、「厳しさと愛情」。ユーモアを交えた指導で、子どもたちに絶大な信頼がある。今回の交流は、5年前五所川原市で行われた国際大会で、自身がロシアのチームと対戦したことがきっかけとなり、友人から招待され実現した。「うちのチームからオリンピック選手を育ててみたい」と熱く語る。

でも驚かされました。

練習後は、市内を観光し、アムール川を遊覧しました。夕方からハバロフスク柔道会の方々が別れパーティー

に決勝戦で惜敗。とはいえロシアの子どもたちの身体能力と柔道のレベルの高さにはとても驚かされました。

翌日になると、生活に慣れてきたのか、子どもたちが朝食を残さず食べていたのにはビックリ。昼からの合同練習のため、市内にある道場に向かいました。そこはヨーロッパ風の歴史ある建物で、畳ではなくレスリング場でした。そこで、柔道衣を着た子どもたちをローマン・ハルコフ氏（旧ソ連のチャンピオン）が指導されていたのには感動しました。これで強い訳が納得できました！元オリンピック選手が指導しているのです。自分自身とても勉強になった合同練習でした。練習中ふと気付くと、鶴田とロシアの子どもたちが何やら会話していました。一体「何語？」で話しているのか分かりませんでした。子どもたちの順応性にはとても驚かされました。

ハバロフスクは、黒パンという固いパンが主食で、ぼくは辛くて「米食いて」と言うほどご飯が食べたかったです。ロシアで試合して、とてもいい経験になったと思います。



鶴小6年 齊藤恭毅くん

ロシアの子どもたちは、背が高く柔道も強かったし、国際ルールで帯をとってきた時はビックリしました。



鶴小6年 奥瀬可奈絵さん

を開いてくださり、鶴田の子どもたちは歌を唄い、ロシアの子どもたちはコサックダンスを披露し、大人たちはウオッカを飲んで楽しい時間を過ごしました。

最終日、柔道はもちろんのこと、さまざまな事を思いながら帰路につきました。

今回の遠征で子どもたちが大きく成長すること、そしてまたこのような交流ができることを望みます。

（太田 明）